

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その81

# 原発いのちみらいオンライン講座 甲状腺検査データを 読み解く

理事 打出 喜義（金沢市・産婦人科）

6月27日（火）、第1回 人が参加しました。目の「原発・いのち・みらい」この講座は、当会がこれ初めて企画したものです。オンライン講座を開催するまで原発・いのち・みらい 第1回目のテーマは「東し、石川、東京、神奈川、シリーズ講演会を開催する 電福島原発事故後の甲状腺大阪、広島、福岡から、医 中で、多くの方より「放射線 検査について」。12年前に師、歯科医師、放射線技 線の健康影響についても「発生した原発事故によって師、原発問題の研究者等27 と学びたい」との声が寄せ 「県民健康調査甲状腺検査」



講師の種市靖行理事（写真右）と司会を務めた打出喜義理事

が行われていますが、現在、報告されている甲状腺がん したが、90分の講座はあつ

## 持論

1986年のチェルノブイリ原発事故後に周辺地域で小児甲状腺がんが多発し、日本からの医療支援等によって甲状腺被ばくに関しては、チェルノブイリ原発事故で影響を受けた地域と比較して少ないという結果も報告されている。さらに放射性ヨウ素による甲状腺被ばくに関しては、チェルノブイリ原発事故で影響を受けた地域と比較して少ないという結果も報告されている。さらに甲状腺がん発見率は被ばく量に比例していないという解析結果も報告されている。

## 東京電力福島第一原発事故後の甲状腺検査は継続すべき

果も検討委員会にて報告されており、1巡目・2巡目の各結果を取りまとめた考察として、多数発見されているが現在のところ放射線被ばくによる影響ではないだろうと評価されている（2巡目の結果に関しては、1巡目と同様の線量区分では被ばく量にがん発見数が比例しているという放射線の影響を示唆する報告もあったが、線量区分を

の公式データとそこから推察されること等について、講師の種市靖行理事が40分ほどで概説し、残りの時間は質疑応答や意見交換に当てました。講演時間より質疑時間

という間に終了の時刻となりました。以下に参加者の感想を紹介します。種市さんのお話は核心を突いたもので分かりやすい。甲状腺腫瘍ガイドラインから年齢や腫瘍径まで重要な点を押さえたお話だった。質問もヨウ素剤、検査の地域分けなど気になるところで、もう少し意見交換したい感じもした。初めてみるデータや図表などがあり、大変ためになった。

急遽変更し比例関係はないと結論された。「放射線の影響ではない」という判断が正しいとすれば、現在多数発見されている甲状腺がんは小さいものを無理に見つけている「過剰診断」なのではないかという推測も成り立つかもしれない。そして、その考えを元にすると「検査縮小・中止」と

発見されているということになり、この3つを同時に成立させることは矛盾がある（甲状腺がんの主な原因としてエビデンスがあるものは、放射線被ばくと遺伝的要因の2つ）。改めてこの3つの事柄を見ていくと、過剰診断対策に関しては成人に対して導入実績があり、その有効性は確認されている。甲状腺がんが多数発見されていること自体は、明らか事実である。しかし、被ばく量に関しては先に述べた通り不確定要素が多く、他の2つに比較して確実性が低い。

以上ことから、現状では多数発見されている甲状腺がんが被ばく影響であると断言することもできないが、「過剰診断」であるという意見よりは正しい可能性が高いだろうし、手術例から考えると早期発見・早期治療の目的に合致していると思われる。最終的な結論が出るまで、今後も検査体制を維持し継続していくことは重要である。

### 第21回 原発・いのち・みらいシリーズ講演会

## 日本のエネルギー政策の問題点(仮)

とき 2023年 10月15日[日] 午前10時～正午

ところ 石川県地場産業振興センター 本館2階 第1研修室

講師 明日香 壽川氏 (東北大学東北アジア研究センター・同大学院環境科学研究科教授)

対象 どなたでも(定員100人)

※詳細・申し込みは同封の案内チラシをご覧ください。

## 7月の大雨被害についてお見舞い申し上げます

7月12日から大雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今回の大雨により医療機関やご自宅に被害が発生していた場合には、お手数ですが、保険医協会に被害状況をご報告くださいますようお願いいたします。

石川県保険医協会  
電話076-222-5373/FAX076-231-5156

問が出来る中で、参加者が「世界の原発立地地域近辺の原発発生状況と日本の比較」「トリチウム汚染水は常に関心が高い」「トリチウム汚染水は取りがたい」「トリチウム汚染水は取りがたい」とも印象的でした。このオンライン講座は今後も年2回の開催を予定して健康影響について、県や国が行っていることを検討し、取り上げたいテーマは参加者から寄せられてほしいや「ともかく、参考意見をお願いしたい」との要望も寄せられています。参加者の期待の大きさが伺われた会となりました。次回も多くの参加者をお待ちしています。